

第1章 計画策定の目的と背景

1 公園の沿革

- 昭和 51 年 町営明野ヶ丘スキー場オープン
- 昭和 52 年 明野ヶ丘公園（総合公園）として都市計画決定
- 昭和 53 年 明野ヶ丘公園造成事業着手（平成 2 年まで）
- 昭和 58 年 スキー場北斜面を芝桜でうめる事業着手（昭和 63 年まで）
- 昭和 60 年 第 1 回芝桜まつりの開催（平成 9 年まで 12 回開催）
- 平成 3 年 全面供用開始（面積 25.0 ヘクタール）
- 平成 8 年 開基 100 年事業によりシンボル施設「ピラ・リ」建設
- 平成 14 年 スキー場にリフト建設

2 計画策定に至る経緯

- 平成 23 年 木製遊具の老朽化により一部撤去が始まる
- 平成 26 年 明野ヶ丘公園のあり方について利用者から要望
- 平成 30 年 幕別小学校 3 年生児童より「幕別町の公園のみらい」要望（第 2 章 1 参照）
- 平成 31 年 幕別小学校の児童と意見交換
- 令和 元年 明野ヶ丘公園再整備庁内検討委員会設置（全 3 回開催）
- 令和 2 年 明野ヶ丘公園再整備基本計画策定着手（ワークショップ全 7 回開催）

3 計画策定の目的

明野ヶ丘公園は、昭和 52 年度に都市計画決定された町を代表する総合公園である。昭和 52 年から平成 2 年までの期間で整備され、パークゴルフコースやスキー場などのスポーツ施設や子どもを対象としたアスレチック遊具、マウンテンバイクコースがある。

また、平成 8 年度には開基 100 年事業によりシンボル施設のピラ・リが建設され、ここから幕別市街を展望することができるなど、みどり豊かな町民の憩いの場として広く利用されている。

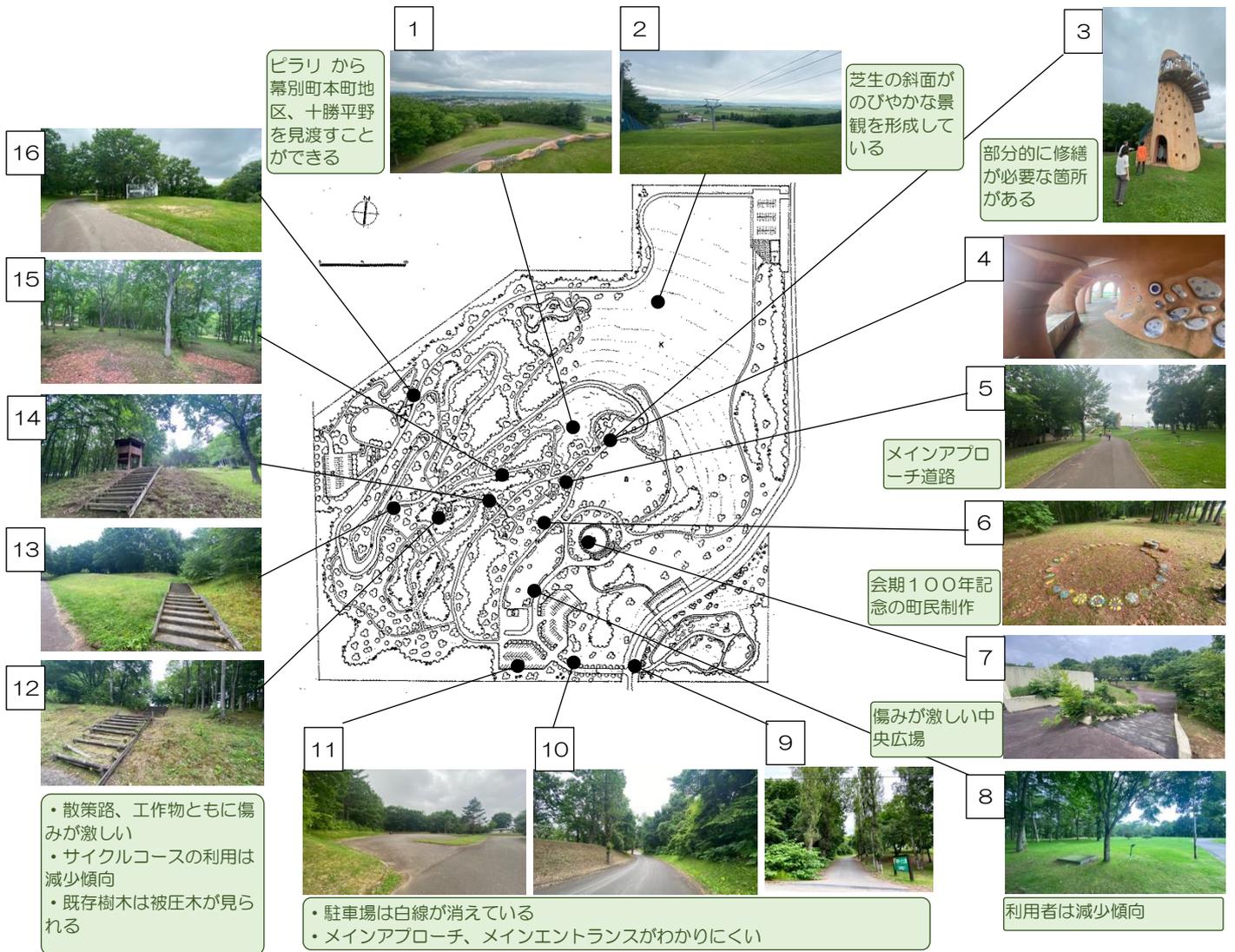
しかし、公園開設から 30 年を経て、施設の老朽化とともに既存樹木も過密な状態になっている。また、園路の傾斜がきつく誰もが安心して利用できるという観点など、公園開設時とは利用ニーズが変化していることを踏まえ、新たな公園づくりの対策が求められている。

再整備基本計画策定を行うにあたり、町民の満足度を満たす質の高い公園を整備するために、自然環境や社会背景、更には利用者ニーズを十分に把握するとともに、当該公園のもつポテンシャルをより一層生かし、維持管理を含めた再整備計画を策定することを目的とする。



4 明野ヶ丘公園の概要

主な公園施設は、明野ヶ丘スキー場、展望施設ピラ・リ、さくらパークゴルフコース、中央広場、サイクルサーキット、サイクルモトクロスコース、ロックガーデン、駐車場、カシワの林、散策路、休憩施設、となっている。



5 上位計画での位置付け

(1) 幕別町総合計画（第6期）

少子高齢化や人口減少の急速な進行による人口構造の変化、経済の低迷、自然災害の発生に対する安全・安心の確保対策の必要性の高まりなど、社会・経済情勢は急激に変化し続けている。このような中、幕別町の持続的な発展のために、「将来像」、「まちづくりの基本理念」、「基本目標」を掲げ、町民、地域、行政が一体となってまちづくりを進めており、基本目標の「自然との調和で快適な住まいる」の中では、「町民とつくるみんなの公園と緑地の保全・整備」が基本計画として位置づけられている。

「みんながつながる住まいるまくべつ」	
まちづくりの基本理念	基本目標
<ul style="list-style-type: none">・みんなで創るまち・安全・安心なまち・魅力あふれるまち・みんなで学ぶまち	<ul style="list-style-type: none">・協働と交流で住まいる・特色ある産業で住まいる・人がいきいき住まいる・豊かな学びと文化、スポーツで住まいる・<u>自然との調和で快適な住まいる</u> <p>→町民とつくるみんなの公園と緑地の保全・整備</p>

●公園整備の現状と課題

- ・公園や緑地は、町民の憩いやスポーツ・レクリエーションの場としてだけでなく、二酸化炭素の削減による温暖化防止や緑を活用した景観形成、コミュニティ活動の拠点としても重要な役割を果たしている。
- ・平成29年4月現在、98か所、総面積242.06haの公園・緑地を有し、町が推進している協働のまちづくり事業などにより、町民が自主的に公園を管理する活動が活発になってきている。
- ・幅広い世代の利用を図り、親しみが持てる公園とするため、公園のプランづくりや遊具等の更新・整備には、町民参加の仕組みづくりが求められている。
- ・憩いの場となる快適な公園を維持するためには、町民と協働による適切な維持管理が重要となる。

●施策の方向性

方向性1：うるおいのある公園の保全と整備

- 1) 公園長寿命化計画に基づき、公園施設の予防的な修繕や計画的な再整備など、町民の身近な広場として、町民参加を基本に公園整備を計画的に進める。
- 2) 子どもや高齢者など、誰もが安全で安心して楽しむことができ、コミュニケーションの場となる公園づくりを目指す。
- 3) 地域住民の主体的な花と緑の環境づくり活動を推進するとともに、自然や緑を充分に取り込み、豊かでうるおいのある公園づくりを進める。

方向性2：緑地の維持保全

- 1) 緑地の適正な保全を図るため「緑の基本計画」に基づき長期的な緑地の維持保全に努める。
- 2) 協働のまちづくり事業を通じ、町民の緑化意識の高揚を図ります。

(2) 幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2期）

将来にわたって活力ある社会を維持する「まち・ひと・しごと創生（地方創生）」の実現に向けて、今後5年間の施策目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた計画である。

第2期総合戦略では、4つの重要な視点を基本に、「基本目標」と「基本的方向」を示している。

第2期総合戦略における4つの重要な視点
<ul style="list-style-type: none"> ①時代の潮流を踏まえた地域づくりとなっているか ②子供から高齢者まで全ての方々を支える仕組みとなっているか ③町政の課題や推進している事業などと一致しているか ④SDGs（持続可能な開発目標）の理念が反映された施策となっているか <p>・みんなで学ぶまち</p>
基本目標
<ul style="list-style-type: none"> ①産業の振興と雇用の場をつくる ②十勝・幕別への人の流れをつくる ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる ④安全・安心で快適な暮らしができるまちをつくる <p>・みんなで学ぶまち</p>
基本的方向（安全・安心で快適な暮らしができるまちをつくる）
<ul style="list-style-type: none"> ○地域公共交通の維持・確保 ○災害時に強いまちづくりの推進 ○誰もが健康で安心して暮らせる環境づくりの推進 ○地域コミュニティ維持と地域活性化 ○社会生活基盤が整備された安全・安心なまちづくりの推進

(3) SDGsの視点を踏まえた計画の推進

持続可能な開発目標（SDGs）とは、貧困、不平等・格差、気候変動による影響など、世界のさまざまな問題を根本的に解決し、すべての人々にとってより良い世界をつくるために設定された、世界共通の17の目標である。

経済発展だけに取り組むのではなく、環境や社会が抱える問題にバランスよく取り組み、その根本的な解決によって、世界を持続させることをSDGsでは目指している。

また、世代を超えたすべての国、すべての地域の人々が、誰一人取り残されることなく、尊重される社会を目指している。（本計画では、6つの目標の視点を取り入れている。）



(4) 幕別町都市計画マスタープラン

市町村の都市計画に関する基本的な方針であり、市町村が創意工夫のもと町民の意見を反映させ、都市づくりの理念や目指すべき都市像、地域別の整備方針、諸施策の計画などをきめ細かく、かつ総合的に示したものです。

公園・緑地の整備方針

公園緑地の整備にあたっては、質的向上に重点を置き、ユニバーサルデザインに配慮した整備を進めるとともに、既存の公園施設の改修について計画的に進める。

<総合公園・運動公園>

総合公園・運動公園は、スマイルパーク、明野ヶ丘公園及び幕別運動公園があり、景観上や環境保全の拠点であることに加え、災害時においても拠点施設として位置づけます。また、スポーツ、レクリエーション及び余暇活動など心身の健康増進の場として特色ある公園の形成を図る。

明野ヶ丘公園は、平成2年の全面供用開始から30年が経過しており、施設の老朽化が進行していることから、再整備に向けた検討を進める。

(5) 幕別町緑の基本計画

市町村の緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画として、市町村がその区域内における緑地の適正な保全及び緑化の推進に関する施策を総合的かつ計画的に実施するため、その目標と実現のための施策等を内容として策定する緑とオープンスペースに関する総合的な計画です。

レクリエーションシステムの配置方針

- 都市化の進展、余暇時間の増大、ライフスタイルの多様性等、スポーツや文化活動、自然とのふれあい、コミュニティ活動など様々なレクリエーション活動の場が求められている。
- レクリエーション活動の場としての機能を持った緑地の充実と利用者の向上を図り住民の健康な暮らしの確保に努める。
- 明野ヶ丘公園については、平成2年から全面供用開始され30年が経過していることから、住民ワークショップ等により住民ニーズを取り込み、再整備に向けた検討を進める。

